

並んで、ORやIEの分野では欠かすことのできない「問題解決アプローチ」の教育については、卒業研究で行なわれているだけで、いささか不足しているように思われます。このような教育をより低学年で実施するには

実験、演習、実習というような科目の中で種々の工夫をして取り入れる以外にはなさそうですから、今後はこの点に注目して教育内容を検討しなければならないと考えています。(黒沢敏朗)

神戸商船大学 輸送科学科

神戸商船大学は神戸港の東部に位置する商船学部のみ
の単科大学である。昭和27年の大学設置当初は航海学
科、機関学科の2学科であったが、同47年に原子動力学
科を加え、ついで54年に航海学科の一部を分離改組して
輸送科学科を発足させた。さらに翌55年には、機関学科
を同様に分離改組して海洋機械管理学科を設けた。

これら5学科の中では、筆者の属する輸送科学科が当
学会に関連が一番深いとみられるので、以下ではこの学
科について紹介する。

輸送科学科は輸送、物流という分野にORなどの工学
的手法を合体させた内容の教育を行なっており、いわば
輸送に特化した計画、管理の学科といつてよいだろう。
本学科は4講座で構成されているが、各講座の1.担当科
目、2.所属教官とその研究内容を、以下にまとめて示
す。

(交通管理学)

1. 航海学概論、海上交通工学、交通計画論
2. 原潔教授：海上交通環境の分析・評価手法の開発および海上交通管轄などの航行安全対策の有効性評価を中心に研究している。(本学会員)

小谷通泰助教授：都市・地域を対象とした交通ネットワークの計画と評価および国内の海上における旅客・貨物輸送の分析に取り組んでいる。

(物流管理論)

1. 物流経営論、物流システム論、港湾運送論、港湾管理論、国際物流論、倉庫論
2. 三木楯彦教授：物流のシステム化全般を扱っている。最近では国際物流に関心を持ち、荷主企業と物流事業者との接点の諸問題のモデル化に取り組んでいる。

今井昭夫助教授：各種OR手法を用いて物流計画のシステム化を扱っている。現在、船会社の物流問題に関心を持っている。

(海運管理論)

1. 海運経済論、海運経営論、交通論、経営工学、空運論
2. 国領英雄教授：海運市場の分析、海運企業行動と成果の分析などに関する理論的・実証的研究をしている。

吉田茂助教授：経営戦略論と市場運賃論の観点から交通業について研究している。

(輸送情報工学)

1. オペレーションズ・リサーチ、情報処理論、ネットワーク論、応用確率過程
2. 間瀬重昭教授：OR関連の手法の交通などの問題への適用—海上交通のマルコフモデルによる分析、交通機関のフェジィ評価などを扱っている。(本学会員)

山村三朗助教授：計算機科学全般を対象としているが、特に各種プログラム技法、符号理論および暗号理論を研究している。

この他、ORに多少とも関係のある授業科目としては共通講座である応用数学教室担当の応用数学、情報数学、統計学：同じく計測工学教室担当の制御理論、電子計算機など学科外の応援を得ているものがいくつかある。

学生定員が20名(ただし臨時増募により現在30)というミニ大学のミニ学科の特色を生かして、教官と学生の結びつきが密で、盛り沢山のレポートが学生に課されている。特に航海学科など乗船系の学生が、1～3年の各学年に1カ月ずつ乗船実習で学外に出る間に、非乗船系である当学科で集中授業として行なう電算機演習などの演習や特別講義、企業実習は、他大学ではあまりみられない特色をもつ課程である。(間瀬重昭)